

第19章 リオデジャネイロ州

リオデジャネイロ州 (o Estado do Rio de Janeiro) / 略称「RJ」	
<p>州旗</p> 	<p>位置</p> 
<p>州旗の中央に描かれる長円形の紋章は、空と山地、緑の大地、青い海岸を背景とし、中央の鷲が政府の強さ、正直さ、公正を象徴する。</p>	
面積、人口 (2010 年)	面積 43,696k m ² (全国 24 位)、人口 15,994 千人 (全国 3 位)
域内総生産 (2008 年)	343,182 百万レアル (全国 2 位)、一人当たり 21,621 レアル (全国 3 位)
州都および人口の多い都市 (人口は 2010 年)	州都：リオデジャネイロ (6,323 千人) その他都市：サン・ゴンサロ (1,000 千人)、ドゥケ・ジ・カシアス (855 千人)、ノヴァ・イグアス (795 千人)、ニテロイ (487 千人)、ベルフォルド・ホシヨ (469 千人)
略史	<p>16 世紀から入植が始まった現在のリオデジャネイロ州は、主に 17 世紀の後半から本格的に発展した。当初は主に砂糖やキャッサバの生産地として発展し、18 世紀からは現在のミナスジェライス州の鉱物を移出する港湾地域として、また 18 世紀の終わりごろにはコーヒーの産地としても知られるようになった。</p> <p>19 世紀に入ると、ナポレオン戦争から逃れたポルトガル王室がリオデジャネイロに居を構えたことで、同市周辺を中心に都市化が本格化した。その後、1960 年のブラジリア遷都までの間、ブラジルの首都を擁する州として発展した。</p>
産業動向	<p>経済活動の規模はサンパウロ州に次いで大きく全国 2 位であり、1 州のみで全国の 11.3% の付加価値を生み出している。一人あたり域内総生産においても、ブラジリアを除けばサンパウロ州に次ぐ第 2 位の州である。</p> <p>リオデジャネイロ州の域内総生産における農林水産分野の割合は現在はきわめて低い。それに代わって鉱工業分野が高い割合を有しているが、これは石油・天然ガスの産出によるところが大きい。製造業の割合は全国平均をやや下回っている。</p>

I. 概要・投資促進政策

I-1. 概要

リオデジャネイロは 1763 年にブラジルの首都となり、1960 年にブラジリアが首都となるまでの 200 年間ブラジルの政治の中心地であった。リオデジャネイロにはナポレオンの侵攻を避けてポルトガル王室が移転したこともある。王室の移転に伴いポルトガルの貴族文化が同市に定着した。そのため、街並みなどいたるところにヨーロッパの文化の影響が見られる。

近年、リオデジャネイロ近海では、海底油田の発見が相次いでおり、特に岩塩層下（プレサル層）での原油開発に注目が集まっている。

リオデジャネイロ州は一般的に 8 つの地域に区分される。以下はリオデジャネイロ州の 8 区分とその主な産業分布である。

図表 19-1 リオデジャネイロ州地図



(出所：CODIN)

図表 19-2 リオデジャネイロ州の産業集積

地域区分	主な産業
北東部	農業、非金属鉱物、木製品・家具、食品・飲料、紙・出版
北部	鉱物採掘、農業、機械、非金属鉱物、土木建設、食品・飲料
中央沿岸部	農業、非金属鉱物、木製品・家具、土木建設、小売
都心部	電気・通信、履物、金融・保険、化学・薬品、卸売り
南部湾岸地域	輸送機器、鉱物採掘、公益事業；施設、電気・通信
パラIBA川中流域	金属、輸送機器、農業、非金属鉱物、ゴム・皮革
中部	農業、非金属鉱物、食品・飲料、化学・薬品、ゴム・皮革
山間部	衣服繊維、木製品・家具、農業、金属・冶金、ゴム・皮革、食品・飲料

(出所：「リオデジャネイロ州の産業集積と都市の成長」)

1-2. 投資促進政策

① 恩典概要

投資の際には、州税および市税の恩典が受けられる可能性がある。ただし、この恩典の詳細についてはすべて個別交渉となっている。

② 管轄

リオデジャネイロ州の経済開発を促進するため、州政府の手により作られた、経済開発を目的とする機関として、インベステリオがある。

図表 19-3 リオデジャネイロ州政府投資誘致機関の連絡先

住所	Rua México, 125 - 2º andar Centro Rio de Janeiro Brasil 20031-145
電話	+55(21)-2333-1212
E-mail	ホームページ上のフォームからコンタクト
URL	http://www.investerio.com.br
対応言語	ポルトガル語

II. インフラ

II-1. 道路・鉄道網

リオデジャネイロは2014年のワールドカップの試合の開催予定地であるとともに、2016年のオリンピック開催予定地であるため、本編記載の通りワールドカップとオリンピック

の整備が平行して行なわれる予定である。現状の交通インフラ網と 2016 年までに構築予定の交通インフラ網図を本編図表再掲としてエラー! 参照元が見つかりません。に示す。

図表 19-4 2016 年までに構築予定の交通インフラ網図



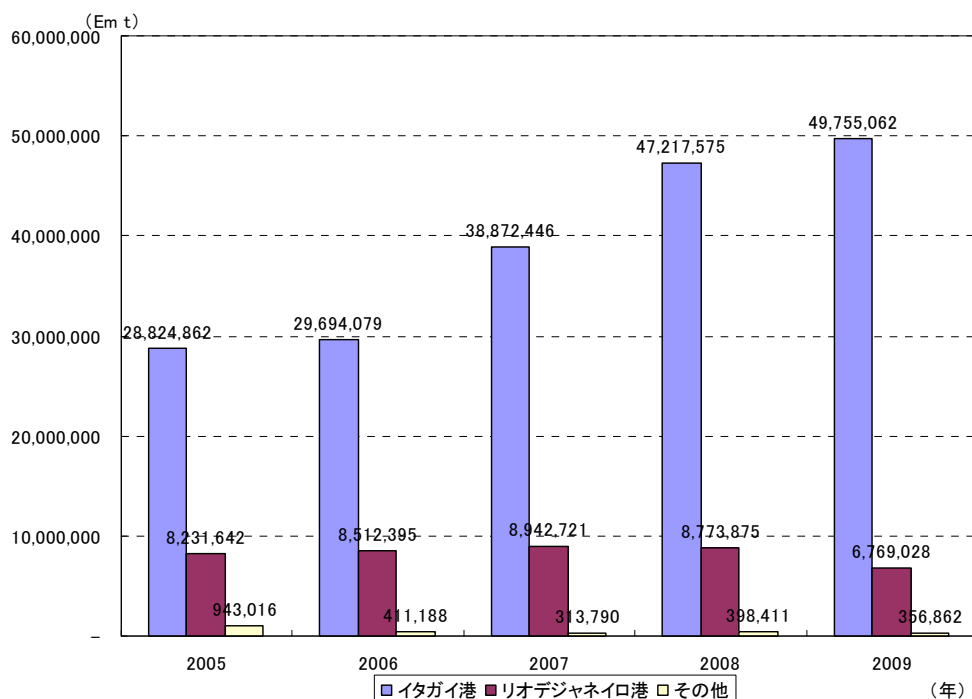
(注 : BRT は Bus Rapid Transit の略)

(出所 : Rio de Janeiro –Investments and Opportunities. November, 2010)

II-2. 港湾

リオデジャネイロ州にはリオデジャネイロ港とイタグアイ港の 2 港が主要港である。リオデジャネイロ港は古くより貨物港として発展してきたが、港の拡張が限界を迎え、イタグアイ港が取扱量を増やしている。鉄鉱石やアルミニウム等の鉱物や大豆など食料資源の輸出港となっているが、同港は増大する貨物取扱量に設備の許容量が限界を迎えており、港湾設備の拡張が望まれている。現在、JICA による拡張プロジェクトの調査が行われている。

図表 19-5 リオデジャネイロ州主要港湾取り扱い船荷量推移 (2005～2009年)



(出所：ANTAQ)

II-3. 空路

リオデジャネイロ州には、2つの国際空港の他、地方空港がいくつか存在している。主要空港については図表 19-6 に示す。2つの国際空港の概要についてはサンパウロと同様その特徴に応じて住み分けがされており図表 19-7 にその概要を示す。

図表 19-6 リオデジャネイロ州 主要空港の指標 (2009年)

	滑走路長 (m)	航空機	乗客数	航空貨物+郵便(トン)
		発着回数		
アントニオ・カルロス・ジョビン国際空港(ガレオン空港)	4,000	119,287	11,828,656	110,853
サントス・デュモン空港	1,323	97,075	5,099,643	3,564

(出所：ANAC)

図表 19-7 リオデジャネイロ州 国際空港の概要

空港名	特徴	就航路線
サントス・デュモン空港 (IATA 空港コード)	<ul style="list-style-type: none"> 市中心部から近い。 滑走路が短く大型機の離着陸は不可能。 	国内線が主。

ード：SDU)	<ul style="list-style-type: none"> サンパウロへのシャトル便が頻繁に運航。 	
アントニオ・カルロス・ジョビン国際空港 (IATA 空港コード：GIG)	<ul style="list-style-type: none"> 旧名はガレオン国際空港であり、この名前で呼ばれることも多い。 サントス・デュモン空港よりは中心部から遠い。 グアルーリョス国際空港開港前はヴィラコッポス国際空港と並んでブラジルの空の玄関口としての役割を果たしていた。 	国際線が主。

サントス・デュモン空港の様子



III. 工業団地

工業団地は存在しない。

リオデジャネイロは、長い間連邦首都であったために、ペトロブラスやエレクトロブラス、ヴァーレといった元国営企業や BNDES といった連邦政府ゆかりの企業が本拠地を構えている。

IV. 進出日系企業と現在直面している課題

IV-1. 進出日系企業

リオデジャネイロ総領事館に届出がされている日系企業数の総数は 59 社である（外務省「海外在留邦人数調査統計 平成 22 年度」）。業種別に同州へ進出している日系企業をみると、リオデジャネイロ州の近海で石油が多く採掘されているほか、ペトロブラス社が本拠地を構えることから、現在同州に進出している日系企業では石油関係の企業が多い。ヴァーレとの取引の在る商社の展開が多い地域である。

IV-2. 現在直面している問題

リオデジャネイロは、ワールドカップ、オリンピックが開催されることが決定しており、インフラ整備が盛んである。そのため、人手不足の状態にあり、結果として賃金は上昇傾

向にある。また、不動産価格も上昇しており、一部ではバブルの懸念も聞かれる。

V. 生活環境

V-1. 住宅事情

リオデジャネイロは亜熱帯圏の南端に位置し、高温多湿な気候である。12～3月の夏期以外でも日中は30度を越える日も多い。

リオデジャネイロは家賃が高騰している。一般的には南部ほど家賃が高くなる。日本人は治安や買い物の便をもとめ、ラランジェライス、フラメンゴ、ボタフォーゴ、イパネマ、レブロン地区に居住が集中する傾向にある。

V-2. 食事・買い物事情

サンパウロと同様、ショッピングモールが存在している。リゾート地を有するため、外食産業は比較的発達している。

サンパウロにもあるバンカ（新聞や雑誌・飲料等を取り扱う簡易な商店）はリオデジャネイロでもよく見られる。

また、コパカバーナ海岸からイパネマ海岸の辺りにかけては、おしゃれなブティックの立ち並ぶ通りもある。

V-3. 交通事情

リオデジャネイロ市内には地下鉄が走っており、中心地から観光地や郊外までを安価な値段で移動できるため、市民の重要な交通手段となっている。地下鉄は市民の利用は多いが、低～中所得者が主な利用客である傾向にあるため、日本人が利用するに当たっては注意が必要である。リオデジャネイロ市内はバス網も発達している。ただし、バス内で強盗も頻繁に起こっているため、利用は控えるのが無難である。リオデジャネイロ市内はサンパウロと比較すると一般に治安があまりよくないため、ホテルから目的地までの移動にはタクシーやハイヤーを用いるなど、細心の注意が必要である。

また貧民街は組織犯罪や薬物犯罪の温床とされ、政府による浄化作戦が今後進むと考えられる。こうした地域には近づくべきではない

図表 19-8 リオデジャネイロの地下鉄網



(出所 : Metro Rio)